文化財見学シリーズ 11

姫路市教育委員会文化財課（昭和58年８月30日発行）
（平成14年２月28日改訂）

『室津道』をたずねて

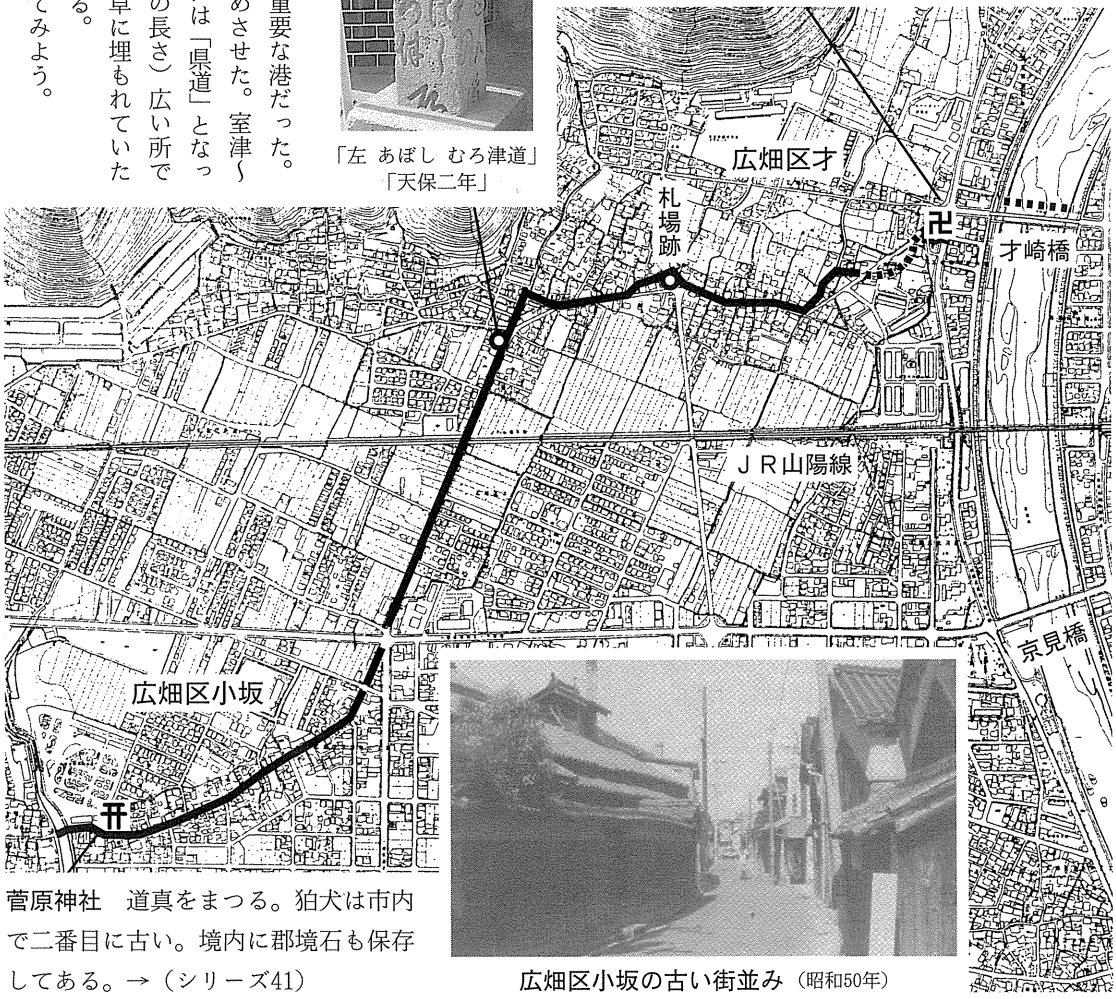
（広畑区小坂 ⟷ 福沢町）

室津は摂播五泊の一つ、古代からの重要な港だった。江戸幕府は、姫路藩に飛地として治めさせた。室津～姫路の道は「室津道」と言い、明治には「県道」となった。だが道幅は６尺（畳一枚のタテの長さ）広い所で９尺、しかも屈曲が多かった。今は草に埋もれていたり、区画整理で消えたりした所もある。ここでは江戸時代の室津道をたどってみよう。

―― 拡幅されているが道筋が江戸期のままの所
------ 道は消えているが、資料・古老の話で分かる所
線が切れている部分は立証できない所
ⒶⒷⒸは写真撮影の位置と方向

「左 あぼし むろ津道」
「天保二年」

才の地蔵　諸国巡拝の行者玄達が賽の川原の地蔵にちなみ、土地の人々の協力で天保２年（1831）つくる。高さ約３ｍ。彼は天保11年までの生涯を地蔵に奉仕したという。



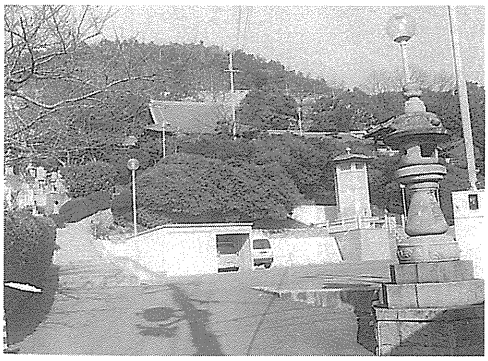
菅原神社　道真をまつる。狛犬は市内で二番目に古い。境内に郡境石も保存してある。→（シリーズ41）

広畑区小坂の古い街並み（昭和50年）

山崎の構（城の台）もと英賀城主の一族・山崎広宗の構。英賀城攻めのとき秀吉軍の本陣として羽柴秀長が陣をおいた。標高89mの城の台にのぼると、英賀城が一望のもとにある。

Ⓐ 山崎・西のお山付近の室津道

書写山の西ふもとの六角村からも人夫をだして、このあたりの道の修理や掃除をした。



亀山本徳寺廟所（西のお山）

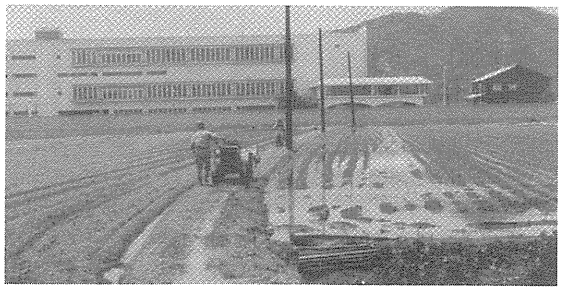
延宝９年（1681）にできた。幕末の謎の茶人、「今晩庵」の墓もある。

山崎の石燈籠

弘化三年（一八四六）のもの。才の渡しは「常に浅し」と古記録にある。歩いて渡る人の目標になっていただろう。

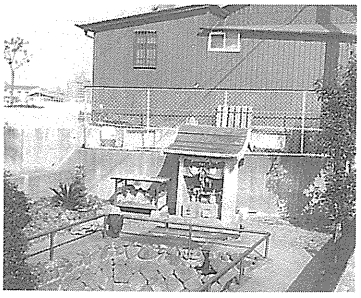
付城の構　天正８年（1580）秀吉が英賀城を攻める時、ここにも城をつくったという。

役所の御用物は山崎－苫編－町坪－岡田－西延末と、往復とも庄屋宅で受け取り、次つぎ送っていった。

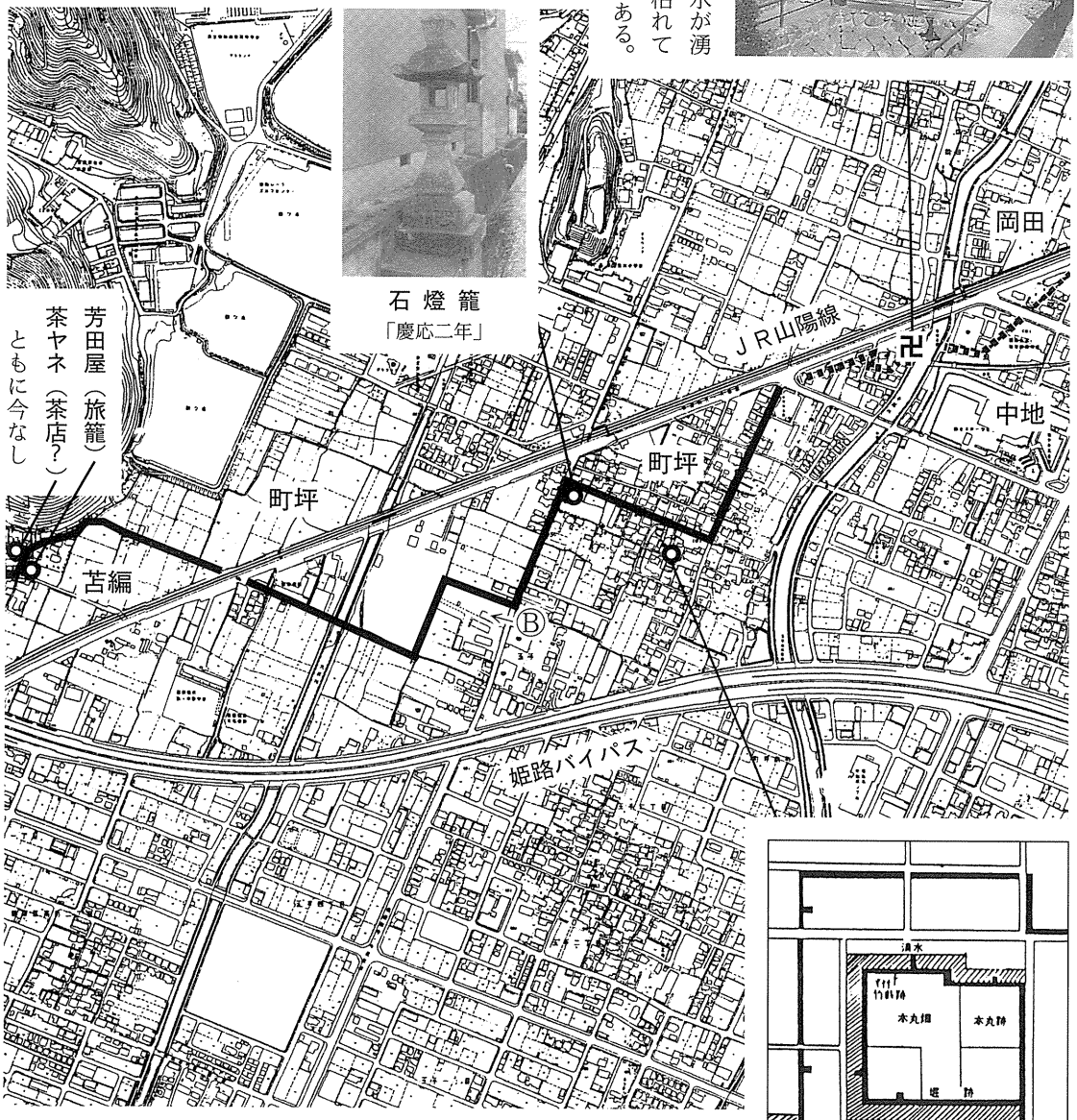


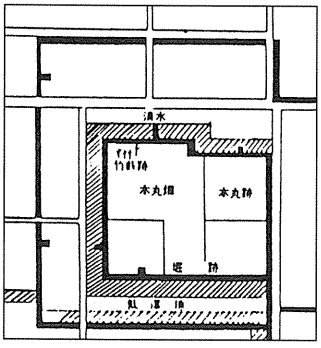
Ⓑ 町坪付近の室津道

この辺りも条里地割によって直角にまがる道が多い。



高清水　石組中に清水が湧き出ていたが、今は枯れている。そばに地蔵堂がある。



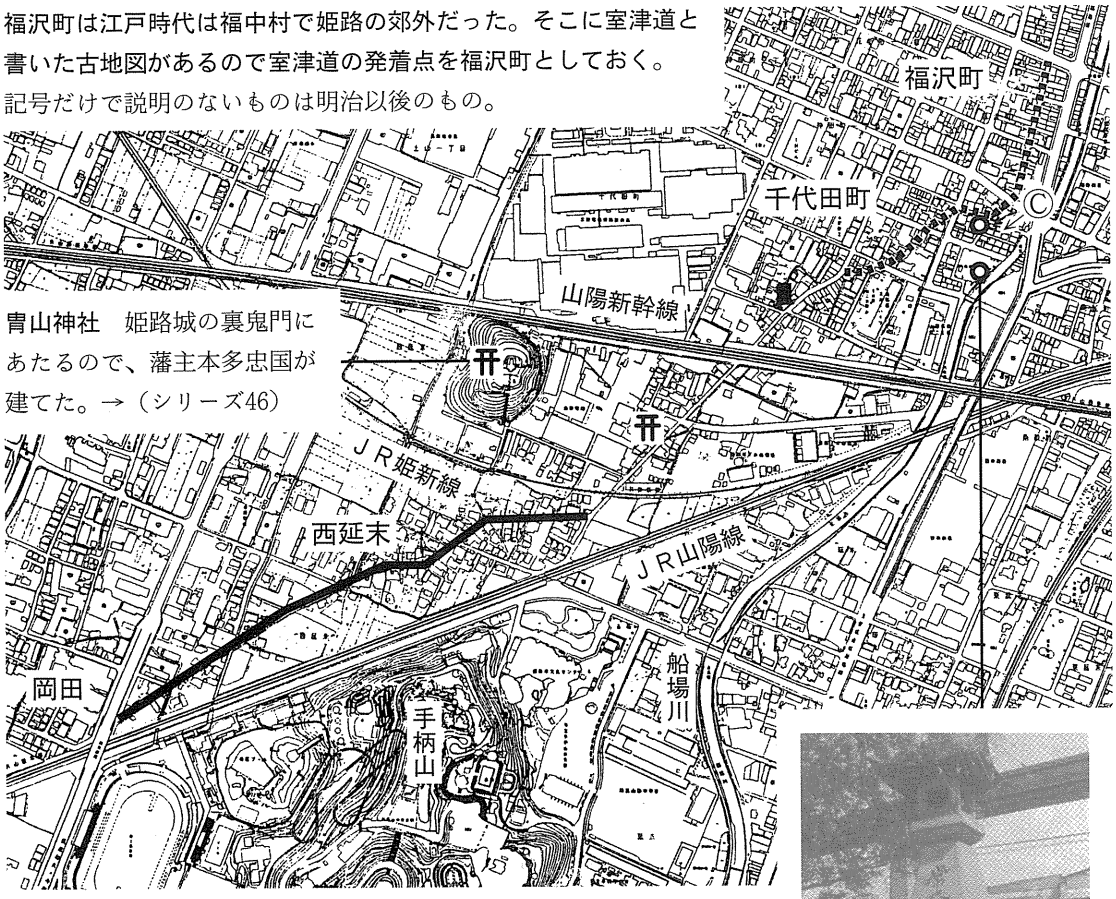


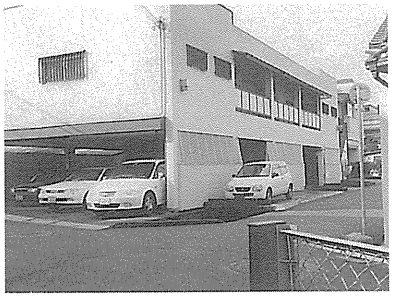
町坪の構

『ふる里　あらかわ』より

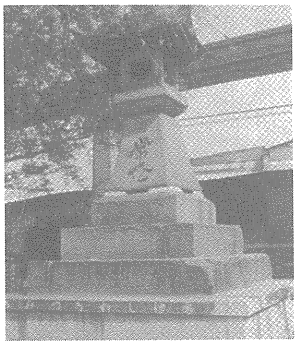
町坪の構　領主は町坪弾四郎（英賀城主三木氏の家臣）。天正８年１月、秀吉軍により落城。構は東西28間、南北26間で集落中央の本丸跡のまわりに堀跡が残っている。→（シリーズ23）

福沢町は江戸時代は福中村で姫路の郊外だった。そこに室津道と書いた古地図があるので室津道の発着点を福沢町としておく。
記号だけで説明のないものは明治以後のもの。





© 写真の中央に、右の写真の常夜燈があった。右への道が室津道。今は拡幅されている。



千代田町の常夜燈
（千代田公園内）
もと公園北方の水路のそばにあった。
「慶応四戊辰年夏」
台石に「あぼし
　　むろつみち」
と刻まれている。

明治26年測図　40年修正
大日本帝国陸地測量部

西延末から右上は屈曲が多い。
用水路ぞいに道があったのだろう。
直線になったのは大正３年のこと。
昭和初期にはバスが通っていた。

■編集　矢内　澄（姫路市文化財嘱託調査員）